

る。凝固中の酸化物の挙動を明らかにするために、一方向凝固実験を行った。酸化物分布は、CMA により測定し、この観察結果をマイクロ偏析と析出を考慮した数学モデル計算と比較検討した。Ti 脱酸鋼では、チタニアは計算から予想

される以上に樹間液相に偏在した。実際と計算の不一致は、酸化物が移動する固/液界面により液体側に排出されることを意味する。一方、Zr 脱酸鋼では計算と同様、均一に分散した。両者の差は、溶鋼と酸化物間の界面エネルギーの差異によると考えられる。

会員には「鉄と鋼」あるいは「ISIJ International」のいずれかを毎号無料で配布いたします。「鉄と鋼」と「ISIJ International」の両誌希望の会員には、**特別料金 5 000 円**の追加で両誌が配布されます。

ブックレビュー

● 第 7 版技術英文のすべて ●

平野 進編著 1991 年 4 月 丸善(株)発行
A 5 判, 708 頁, 定価(税込) 5,459 円

本書の目的は、読者が英語国人に添削してもよいという気を起こさせる程度のきっちりとした英文を書けるようになること、および添削された英文の内容と表現ニュアンスが自分の意図するところに一致するかどうかの判断を下させるようになることである。想定している読者には、通常研究者・技術者の他に国際機関・在外事務所・外国政府などで働く技術者、商社のセールスエンジニア、さらに企業の中で技術英文の作成に従事している人が含まれる。対象とする技術英文は、研究論文・技術資料から国際機関・外国政府に対する技術報告や勧告書、技術協力契約書、仕様書、特許明細書、マニュアル・カタログにまで及んでいる。

内容は 5 部に分かれている。第 1 部では、英文になるような和文を書くための知識が述べられている。ここでは、和文と英文の発想法の違いが説明されていて、特別な意識なしに書かれた和文をそのまま英文にすることは困難であることが強調されている。第 2 部では、英文を書くための英文法の要点が述べられていて、類似した英語表現のニュアンスの違いが例示されている。第 3 部では、論文の構成法、表題の決め方、要旨の書き方など研究論文を書くためのマニュアルが示されている。第 4 部では、法律文・契約文の特殊な言い回しなど勧告書、契約書などの特殊技術文書を書くためのマニュアルが示されている。第 5 部では、国際的な場での日常業務・社交の知識が述べられている。

本書の第 1 の特色は、著者が体験を通じて確立した「和文と英文は発想法自体が異なる」ということの認識に基づいて書かれている点にある。すなわち、第 3 者に英訳を依頼する場合でも和文をその解釈が一義的に定まるような厳密な表現に書き直す仕事をしなければならないという主張と、そのための句読法が述べられている。(), [], { } を句読法として用いるという提案は、本誌の論文にも取り入れてよいと筆者は思う。

本書の第 2 の特色は、本書の記述自身がマニュアルとして精細かつ厳密に書かれている点にある。付録には具体的な例文・文書が示されている。さらに、国際的な場で必要な勧告書の作成法・社交の知識などの英文による研究論文執筆以外の記述にも本書の特色がある。

「研究論文・報告書などを英文で書こうとする、または英文への翻訳を第 3 者に依頼しようとする人は、本書を一読する必要がある」という著者の主張に筆者も同感する。和文で本誌に投稿しようとする読者にも、本書を一読のうえ、論文の構成法や日本語の厳密な表現法を意識して執筆することを薦めたい。

なお今回の改訂の要点は、冠詞・単複名詞の使い方、同義の用法に重点を置いての第 2 部の書き直しと付録からの医療関係の削除にあるという。本書は内容的には既によく練れている。詳細な目次と和文および英文の索引があるので日常的に辞典として活用することもできる。ただ活字組みとしては、行間の空気が大きい割に字が細かいので読みにくい。索引に載っている語を太字などで強調してあれば、見つけ出しやすいであろうと思う。

(東京大学 伊藤邦夫)